

(7) 透明度

1985年7月23日と1986年1月7日に湾内5地点で透明度板(φ30cm)を使用して透明度を測定した。

結果は図17に示すとおりで、前年度と同様に湾口部で高く、湾奥部で低い傾向がみられる。本年度は冬季の海況が悪くて湾口部での測定を水深20m以深の地点でおこなえず、したがって透明度の値が水深よりも大きいために水深以上とした。

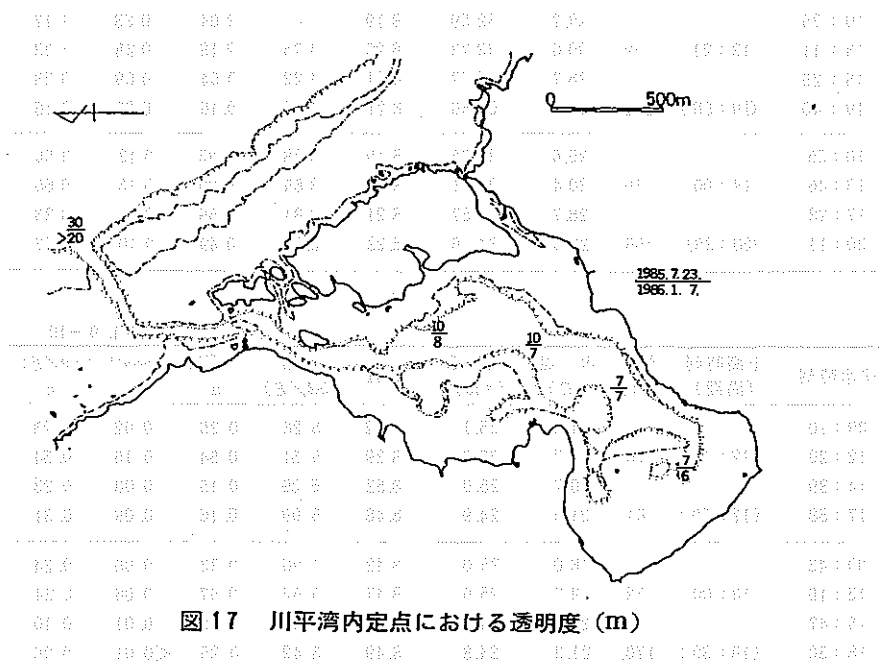


図17 川平湾内定点における透明度(m)

要 約

- (1) ヒメジャコの生殖巣部重量調査は5月から9月まで実施した。生殖巣部重量比(GWR)は5月よりも6月が低くなり、7月には5月の水準にまでもどり、8月には $47.5 \pm 9.4\%$ と最高値を示したが9月には $17.8 \pm 5.0\%$ と急減した。今年度は6月にGWRが一旦減少したために7月が回復期と発達期となり、成熟の遅い年となった。
- (2) ヒメジャコの定点での成長量調査は、6個体を継続測定した。1年間で $9.07 \pm 0.45\text{cm}$ から $9.48 \pm 0.58\text{cm}$ となり平均成長量は 0.41cm であった。測定個体中1番成長のよい個体の成長式は、 $L(\text{cm})=14.90(1-e^{-0.0009-0.1561t})$ で表わされ、約4年11ヶ月で8cmに達すると計算された。
- (3) ヒメジャコの放流調査は埋め込み法、折衷法、人工基質法(セメントブロック法)の3法を継続調査した。セメントブロック法についてはその問題点について検討を加えた。今年度の放流数は15,500個体であり、大きさは殻長 $2.4 \sim 11.5\text{mm}$ の範囲であった。
- (4) 大型シャコガイの生息状況調査は、1974年から実施してきた八重山海域での調査結果をとりまとめた。資源の減少が著しく、最近漁獲されているヒレジャコやシャゴウは深所や漁港から遠地の取り残し分である。
- (5) シャコガイの種苗生産に関する試験は、ヒメジャコについては7月31日に切り出しーア